

「第2回ステージレース三陸 SRS130」開催報告書

2024年8月

特定非営利活動法人ディスカバー・リアス

平素より弊法人の活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。私たちは5月末、
「東日本大震災から復興した三陸地方の新しい魅力を発見し、それを広く伝えていく。」
「タイムや順位を競うだけでなく、“走る旅”という新たなスポーツを広める。」
ことを主旨としたスポーツイベント「ステージレース三陸」の2回目を開催し、無事に終了いたしました。
大変遅くなりましたが、開催のご報告をすると共に、ご支援ご協力頂いた皆様に厚く御礼を申し上げます。

ステージレースとは選手全員が宿泊しながら進んでいく長距離レースです。昨年の第1回は1泊2日で宮古～釜石の100kmを走りましたが、今年は2泊3日で宮古～陸前高田の130kmと延長しました。参加者数は35名と前回と同規模ですが、その半数以上が首都圏で、東海地方や関西など全国各地からランナーが集まりました。初めて三陸を訪れる人も多く、リアス海岸の絶景と被災地復興の現状を実感すると共に、海山の幸の素晴らしさと地元の人たちの優しいおもてなしに満足感を感じていただいたようです。また各種報道の他、NHKで国際放送番組が制作されるなど、メディアの注目度も前回以上に高まりました。

私たちスタッフにはまだ至らない点もありましたが、地元の皆様とご協賛社の皆様、そして行政関係者の皆様のご協力をいただき、運営面も少し進歩しました。これからも目標である全長311kmレースの実現を目指し尽力していきます。今後も引き続きご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。

1.【大会概要】

- 大会名：第2回ステージレース三陸 SRS130
- 開催日：2024年5月24日(金)～26日(日)
- 主催：特定非営利活動法人ディスカバー・リアス
- 後援：岩手県、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市
- 協賛：<宮古市>重茂漁業協同組合、さとう衣料店/さとう珈琲豆直売、すがた
<山田町>びはん
<大槌町>MOMIJI
<釜石市>浜千鳥、藤勇醸造、宝来館
<大船渡市>アマタケ、さいとう製菓、スリーピークス、バンザイファクトリー、マイヤ
<陸前高田市>神田葡萄園、サンファーム小友、酔仙酒造、高田自動車学校、東海堂、ひころいちファーム
<盛岡市>ベアレン醸造所
<東京都>サントリー
- 協力：<宮古市>宮古漁業協同組合、宮古観光文化交流協会、昭和通りのおかみさんもてなしたい、白浜自治会、姉吉キャンプ場、千鶏自治会、石浜自治会、川代自治会
<山田町>三陸やまだ漁業協同組合、山田町交通指導隊、産直ひろばふれあいパーク山田
<大槌町>新おおつち漁業協同組合、どんりゅう庵
<釜石市>かまいしDMC、釜石ベイシティホテル、なにわ屋
<大船渡市>大船渡市観光物産協会、佐々木淳&イザベル、明和土木
<陸前高田市>高田松原津波復興祈念公園管理事務所
<盛岡市>JR東日本盛岡支社
- 特別協力：三陸鉄道株式会社
★ 三陸鉄道開業40周年記念イベント
★ サントリー東北サンさんプロジェクト シン・みらいチャレンジプログラム支援事業



SUNTORY
東北サンさんプロジェクト
since 2011

シン・みらいチャレンジ
プログラム

2. 【競技概要】

- 競技は3日間。走行距離は約130km(1日目約57km、2日目約41km、3日目約31km)
 - 1日目 スタート:宮古市・浄土ヶ浜 ゴール:山田町まちなか交流センター
 - 2日目 スタート:山田町・産直ひろばふれあいパーク山田 ゴール:釜石市・うのすまイトモス
 - 3日目 スタート:大船渡市・三陸鉄道綾里駅 フィニッシュ:陸前高田市・奇跡の一本松
- 競技は、設定されたチェックポイント(CP)を順番通りに回るオリエンテーリング形式。
 - ◆ 選手にはCPの位置を示した地図とCPの位置情報(GPXデータ)が与えられる。
 - ◆ CPではスタッフが通過確認をするか、選手自身が写真を撮って通過証明とする。
 - ◆ 競技中に補給(給水・給食)ができるエイドステーションもチェックポイントとする。
 - ◆ 競走しない移動区間も設ける。3日間の競走区間の所要時間を累計して順位を定める。



3. 【主なチェックポイント、エイドステーション】

1日目(宮古市・山田町)

- ◆ 三陸鉄道津軽石駅
- ◆ 宮古運動公園
- ◆ 月山山頂展望台
- ◆ 重茂漁港
- ◆ 鮎ヶ埼灯台
- ◆ 姉吉キャンプ場
- ◆ 旧千鷲小学校
- ◆ 石浜漁港
- ◆ 川代津波石碑群
- ◆ 浜川目コミュニティセンター

2日目(山田町・大槌町・釜石市)

- ◆ 鯨山山頂
- ◆ 浪板不動滝
- ◆ 浪板海岸ヴィレッジ
- ◆ 吉里吉里フィッシャリーナ
- ◆ 蓬莱島(対岸)
- ◆ 大槌町役場旧庁舎跡地
- ◆ 城山公園・希望の灯り
- ◆ どんりゅう庵
- ◆ 宝来館
- ◆ ラグビー神社

3日目(大船渡市・陸前高田市)

- ◆ 綾里不動滝
- ◆ 綾里峠
- ◆ 旧大船渡商工会議所
- ◆ BRT大船渡駅
- ◆ BRT碓石海岸口駅
- ◆ BRT小友駅
- ◆ 東海堂
- ◆ 箱根山展望台
- ◆ 震災遺構・下住定住促進住宅
- ◆ 高田松原海岸

4. 【選手の宿泊先】

- 前日(5月23日・金): 宮古市
 ホテル宮古ヒルズステーション、HOTEL BIG WAVE、
 宮古ホテル沢田屋、宮古ホテルセントラル熊安、ゲストハウス3710
- 1日目(5月24日・土): 山田町
 うみねこ温泉湯らつくす、船宿海太郎、ホテルビジネスインやまだ
- 2日目(5月25日・日): 釜石市
 釜石ベイシティホテル、ホテルクラウンヒルズ釜石、
 ホテルフォロクロロ三陸釜石、ホテルマルエ、多田旅館

5. 【写真集】



1日目・浄土ヶ浜スタート前



三陸鉄道で津軽石まで移動



チェックポイントを探して重茂を走る



重茂漁港のエイドステーションでは漁協の皆さんからめかぶ井とわかめ汁がふるまわれ、メディア各社も取材に集まる



2日目は産直ひろばふれあいパーク山田をスタートし、鯨山に登山



大槌のエイドステーションはどんりゅう庵で鹿カレーを味わう



釜石・宝来館では女将さんが大漁旗でお出迎え



2日目の夕方、シープラザ釜石で選手とスタッフの交流会が開かれた



3日目・大船渡駅前では採れたてのホタテを炭焼き



大船渡から陸前高田への移動にはBRTも利用



氷菓・くずバーが大好評の東海堂



奇跡の一本松前でフィニッシュ！

6. 【参加選手概要】

- 参加選手数：35名(ペア7組・ソロ21名)
- 性別：女性10名、男性25名
- 年代：20代2名、30代4名、40代7名、50代15名、60代6名、70代1名
- 都道府県：岩手県2名、秋田県1名、宮城県2名、栃木県1名、茨城県2名、千葉県3名、東京都12名、神奈川県5名、新潟県1名、静岡県4名、京都府1名、奈良県1名
- 3日間全行程の完走者：35名中30名(ペア6組・ソロ18名)

7. 【参加選手アンケート(抜粋)】

<大会全体・競技方法について>

- ◆ この大会のおかげで、美しい景色が見れたこと、美味しい物をいただけたこと、海が見れるトレイルという贅沢なコースを走れたことに感謝しています。ありがとうございました！！
- ◆ スマホの地図アプリを見ながら走り、CPを探し当てて写メを撮り、という競技は初めてでした。自己との戦いに終始するいつものレースとは全く違う楽しい経験でした。
- ◆ 三鉄やBRTでの移動を取り込んだのは面白いと思いました。これまでのトレイルランとは違う楽しみを体験することができました。

<リアス海岸の景観について>

- ◆ 山あり海ありのコースは、高低差はあってきついです、まさにリアス式の魅力だと思います。
- ◆ 美しい浄土ヶ浜の日の出の中、スタートラインの最前列に立てるような経験ができるのは、この大会だけです。
- ◆ 砂浜しかない浜松からの参加でしたので、リアス式海岸のスケール感には圧倒されました。空と海の青と山の緑が一面に広がる風景が人が住む場所のすぐそばにあることにも驚きました。

<震災復興について>

- ◆ 岩手を訪れたのは初めてでした。浸水がここまであったとか想像以上のもので重く受け止めたのですが、それ以上に13年経ち、ここまで復興しているという人間のパワーを感じました。
- ◆ 最終ゴール近くの松林、10年でここまで育った。松も頑張っている。これにも胸いっぱい。
- ◆ 自身の住む静岡に地震が発生したらどうなるだろうということを具体的にイメージするきっかけになり、現物を残すということがいかに大切かということを感じました。
- ◆ 何もかも流されてしまった荒れ地に新しい道が整備され、新しい家が建ち、立派な公共施設やお店が作られ、人びとが力強く歩みを進めておられることを肌で感じ、人間の逞しさに心打られました。

<地元の方々とのふれあいについて>

- ◆ 宮古駅前での地元の方々の応援がとってもうれしかったです。現地の方の応援を受け取って素直に喜び、またここに戻ってくる自分が自分のできることなのだと感じました。
- ◆ エイドはとても印象的でした。カレー屋での店の方や鹿肉生産者との交流、和菓子屋での店員さんによる甘味やアイス提供などは町中を通ることの多い本イベントの魅力の1つだと感じました。
- ◆ めかぶ丼、ホタテ、特にホタテは今まで食べたことのない大きさ、味で、ぜひおかわり一回OKにしてください。
- ◆ 行き会う方々はみな怪訝な顔することなく挨拶に答えていただけ、お話しも都度気持ちをリフレッシュできたとともに当日の様子より今の話を多く聞けたのは励みになりました。



